

「安全で安心な暮らしやすいまち」さがみはらの実現に向けて



相模原市消防局長 石原 英朗

相模原市は、神奈川県の中西部に位置し、北は東京都、西は山梨県と隣接しております。市内には中央自動車道や圏央道のインターチェンジがあり、JR東日本をはじめとした6つの鉄道路線があるなど、交通アクセスの良さを背景に近年は物流拠点としても注目されており、今後は、リニア中央新幹線の神奈川県駅が市内に設置されるなど、ますますの発展が見込まれております。

また、在日米陸軍相模総合補給廠との共同使用区域に、相模原スポーツ・レクリエーションパーク（運動公園）が全面オープンしたほか、様々なスポーツ競技において多くのオリンピック・パラリンピック選手を輩出するなど、スポーツが盛んな市としても賑わいをみせています。さらに、恵まれた自然環境を有し、登山やツーリング、キャンプなどのアウトドアを楽しむために多くの方が市内を訪れるなど、「都市と自然のベストミックス」した魅力のある都市で、本年11月20日、市制施行70周年を迎えます。

さて、災害に目を向けますと、火災件数は減少傾向にあるものの、高齢化の進展、新たな感染症の流行や市民意識の変化などにより救急出場件数は右肩上がりの増加傾向を示し、令和4年に引き続き、昨年も救急出場件数、搬送人員ともに過去最多となりました。この現状を踏まえ、臨時救急隊の整備や、救急車の適時適切な利用の周知を図るとともに、過去の救急出場記録データの分析を行い、長期的視点を踏まえた具体的な救急需要対策を進めるほか、救急業務の高度化を推進してまいります。さらに、DX化の推進により業務の効率化を図るとともに、救急隊員の適正な労務管理を推進し、市民に対し救急業務を安定的かつ持続的に提供できる体制を確保してまいります。

また、令和6年能登半島地震に伴い、緊急消防援助隊神奈川県大隊として本市からも部隊を派遣し、捜索救助活動や安否確認、地元消防本部の支援などを実施しました。今後につきましては、多様化・激甚化している大規模自然災害に適切に対応するため、関係機関との綿密な連携訓練の下、広域応援体制を強固にするとともに、本市が被災した場合の受援体制も、さらなる強化を図ってまいります。

近年、本市消防職員の若年化や、火災件数の減少などより現場経験不足が懸念されていることから、昨年度に再整備した防災消防訓練場を活用した質の高い教育訓練を実施し、消防部隊のさらなる活動能力の向上を図るとともに、職員固有の能力や得意分野などの開発、多様な業務に対応できる職員の育成を目的とした「企画プロジェクト」を実施することにより、知識や技術の蓄積を進めているところです。さらに、SNSを活用した積極的な情報発信などを行い、新たな人材の確保にも力を入れております。

その他、風通しの良い職場づくりのための職員の行動指針となる、「クレド」を策定し、職員同士がお互いを理解し尊重し合うことで、より良い人間関係を構築するなど、職員意識を高める取組みを推進しております。

このように、新たな時代への変化に対し、柔軟に対応をするとともに、市民一人ひとりの生命・財産を守り、「安全で安心な暮らしやすいまち」の実現に向け、職員が一丸となり消防行政を推進してまいります。